

# ひょうごらくのうメモ

12

2023DEC



表紙:『牛にゆうをしぼる前の牛』 淡路市 西岡 秀馬さん  
第41回らくのうひょうごフェスティバル・絵画コンクールより

フルカラー版は組合ホームページから  
ご覧いただけます。



発行：兵庫県酪農農業協同組合

神戸市西区伊川谷町潤和1058  
西神文化センター3階

# 生乳生産統計

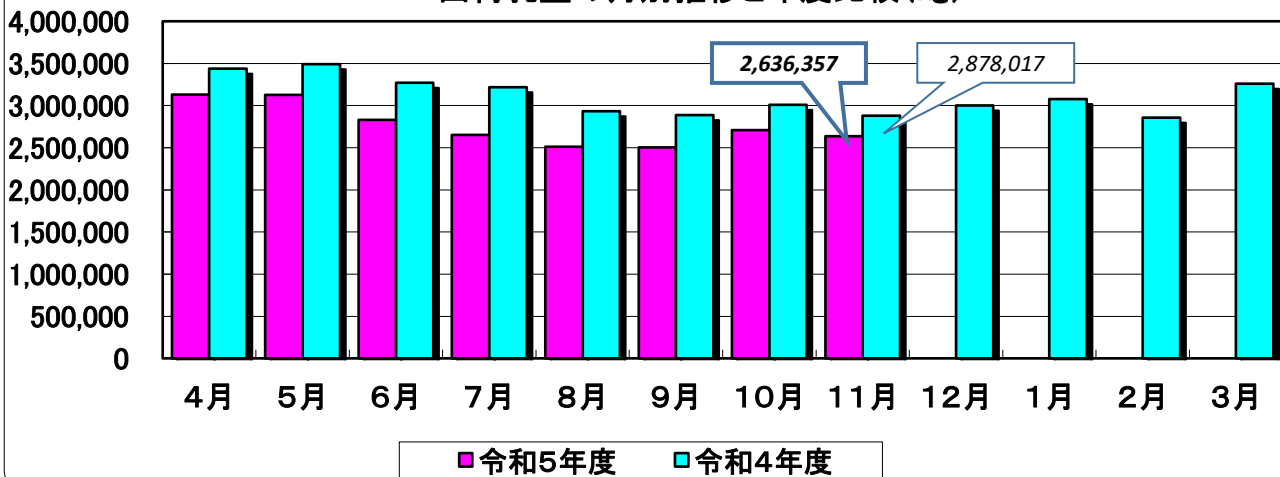
## 1. 全国(令和5年9月・農林水産省牛乳乳製品の生産動向より)

			生乳生産量 (千トン)	対前年比 (%)
令和	5年	4月	628.0	95.6
令和	5年	5月	648.9	95.6
令和	5年	6月	619.3	96.3
令和	5年	7月	616.5	95.5
令和	5年	8月	590.1	94.1
令和	5年	9月	573.4	94.6
令和	5年	10月	597.8	96.1
令和	5年	11月		
令和	5年	12月		
令和	6年	1月		
令和	6年	2月		
令和	6年	3月		
令和	5年度	累計	4,273.8	95.4

## 2. 兵庫県酪農協取扱い分(公共施設除く)

地 区	令和 5年11月		年度累計		出荷農家 戸 数
	生乳生産量 (kg)	対前年比 (%)	生乳生産量 (kg)	対前年比 (%)	
阪神地区	511,791	94.5	4,137,969	88.2	20
播州地区	327,328	67.8	2,816,315	65.9	15
丹但地区	231,533	81.7	2,129,952	82.2	14
淡路地区	1,565,705	99.7	13,015,586	95.5	82
合 計	2,636,357	91.6	22,099,822	87.7	131

出荷乳量の月別推移と年度比較(kg)



## 理事会報告

令和5年11月29日(木)、第6回理事会をWEB会議方式により理事5名、監事2名の出席のもと開催した。組合長挨拶の後、令和5年度生乳計画生産進捗状況、令和5年度8月起点限定決算、生乳賠償責任保険の更新について報告し、次の事項について協議した。

- ① 令和5年度上期決算状況について  
 廃業農家発生を含む生乳生産量の減少と、合わせて購買事業収益の減少等々の影響により、上期起点による決算状況は146万の欠損と推測された。
- ② 生乳受託販売規程の一部改正について  
 廃棄事故に伴う生乳の廃棄について、廃棄業者が受けきれない場合の処置として、起因者の農場において処理を行う事を追記した。
- ③ 冬期賞与支給について  
 今年度予算計画のとおり職員に対し冬期賞与の支給を承認した。
- ④ 地区別懇談会日程並びに内容について  
 例年通り上期決算状況の報告等の内容で、次の日程により開催することを決定した。  
 【淡路地区】 12月13日(水)13:30より 榎列公民館  
 【本州側】 12月20日(水)13:30より 丹波市青垣住民センター  
 ※阪神・播州・丹但の3地区を一会場で開催

その他として、近畿生乳販連からの動薬・抗菌剤使用調査について、地区内組合員に対し役員からの協力要請をお願いした。

※12月29日～1月3日まで年末年始休業となります。	15日 第61回淡路農林水産祭(淡路市・伊弉諾神宮)	4日 仕事始め・職員会議	1月	28日 仕事納め・大掃除	25日 緊急理事会	22日 全農・令和6年度安定基金説明会(WEB)	20日 地区別懇談会 本州側(青垣住民センター)	12月
----------------------------	----------------------------	--------------	----	--------------	-----------	--------------------------	--------------------------	-----

◆ 主な行事予定 ◆

参考情報

淡路家畜市場情報

令和5年11月第2金曜日

F1 スモール			頭数(頭)	平均価格(円)	最高価格(円)	最低価格(円)	平均体重(kg)	キロ単価(円)	平均日令(日)	平均価格の増減	対比
			メス	今回	12	65,175	165,000	7,700			57
前回	10	27,940		41,800	12,100			60	37,235	133.3%	
前年	8	78,238		113,300	56,100			53	-13,063	-16.7%	
オス	今回	11	86,800	178,200	9,900			56			
	前回	15	70,840	166,100	24,200			57	15,960	22.5%	
	前年	16	108,625	190,300	59,400			56	-21,825	-20.1%	
去勢	今回										
	前回										
	前年										

ホルス スモール			頭数(頭)	平均価格(円)	最高価格(円)	最低価格(円)	平均体重(kg)	キロ単価(円)	平均日令(日)	平均価格の増減	対比
			メス	今回	1	7,700	7,700	7,700			43
前回											
前年											
オス	今回	5	6,600	13,200	1,100			47			
	前回	2	13,750	18,700	8,800			53	-7,150	-52.0%	
	前年	4	8,800	13,200	1,100			53	-2,200	-25.0%	
去勢	今回										
	前回										
	前年										

\* 前は令和6年10月第4金曜日・前年は令和4年11月第2金曜日

令和5年11月第4金曜日

F1 スモール			頭数(頭)	平均価格(円)	最高価格(円)	最低価格(円)	平均体重(kg)	キロ単価(円)	平均日令(日)	平均価格の増減	対比
			メス	今回	25	53,064	168,300	1,100			57
前回	12	65,175		165,000	7,700			57	-12,111	-18.6%	
前年	15	102,887		160,600	8,800			55	-49,823	-48.4%	
オス	今回	21	54,738	173,800	1,100			56			
	前回	11	86,800	178,200	9,900			56	-32,062	-36.9%	
	前年	12	80,850	171,600	1,100			52	-26,112	-32.3%	
去勢	今回										
	前回										
	前年										

ホルス スモール			頭数(頭)	平均価格(円)	最高価格(円)	最低価格(円)	平均体重(kg)	キロ単価(円)	平均日令(日)	平均価格の増減	対比
			メス	今回							
前回	1	7,700		7,700	7,700			43	-7,700	-100.0%	
前年											
オス	今回	4	9,625	14,300	6,600			51			
	前回	5	6,600	13,200	1,100			47	3,025	45.8%	
	前年	4	8,250	11,000	3,300			55	1,375	16.7%	
去勢	今回										
	前回										
	前年										

\* 前は令和5年11月第2金曜日・前年は令和4年11月第4金曜日

# 隣県家畜市場情報

## 乳用種(雄のみ)

年 月	岡山総合		広島・三次		徳島畜産センター		平均・合計(全国)		
	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	
2年次	99,316	920	92,268	1,310	88,244	279	108,936	95,423	
3年次	83,134	947	92,646	1,184	74,198	254	108,163	98,856	
4年次	61,056	878	68,011	1,060	60,809	224	70,776	85,621	
4	1	60,274	73	86,602	118	96,842	26	84,852	7,917
	2	78,917	74	84,541	76	82,622	27	99,587	7,368
	3	89,551	78	93,886	134	84,111	28	104,430	8,775
	4	96,634	73	98,901	78	93,317	18	101,788	7,440
	5	112,322	54	111,763	78	99,245	18	123,317	6,324
	6	122,177	71	111,003	68	119,460	10	117,640	7,227
	7	95,057	53	104,775	56	85,663	8	74,406	7,599
	8	45,824	76	66,689	75	30,158	12	31,436	7,762
	9	25,075	83	22,432	102	17,417	12	15,575	6,428
	10	16,210	91	21,039	87	9,477	26	20,611	6,131
	11	18,362	78	20,287	97	8,250	22	26,558	6,750
	12	14,582	74	21,227	91	10,159	17	22,961	5,900
5	1	15,738	78	27,690	58	19,500	22	23,711	5,826
	2	15,420	56	22,022	99	12,624	21	36,078	5,457
	3	32,237	49	30,240	53	10,633	12	51,012	6,592
	4	34,608	39	43,205	90	47,594	15	58,915	5,810
	5	65,572	36	67,518	79	50,008	13	69,390	6,043
	6	67,793	27	74,466	79	59,620	5	76,121	6,049
	7	52,833	33	60,202	74	11,000	1	64,051	5,771
	8	31,746	57	28,792	138	取引なし		38,962	6,771
	9	15,620	45	17,446	107	20,411	9	32,738	5,721
	10	16,375	53	15,531	84	3,713	8	45,190	5,949
	11	18,925	44	24,182	123	6,160	5	55,887	5,995
	12								

## 交雑種・乳

年 月	岡山総合		広島・三次		徳島畜産センター		平均・合計(全国)		
	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	
2年次	228,479	6,027	217,319	4,382	264,159	2,114	190,693	172,233	
3年次	210,211	6,047	193,481	4,181	230,848	1,993	181,918	178,394	
4年次	157,307	6,259	149,060	3,820	190,213	1,918	135,855	174,435	
4	1	156,690	554	134,664	365	200,007	194	150,928	14,421
	2	154,568	511	135,321	311	173,563	172	163,424	13,270
	3	173,935	563	159,393	369	183,812	206	175,588	15,423
	4	181,317	559	179,829	287	212,539	189	178,697	13,776
	5	209,912	449	203,328	263	235,953	151	190,858	12,825
	6	238,145	353	221,190	368	220,208	143	187,300	12,975
	7	204,151	331	188,185	287	226,511	112	157,593	13,177
	8	156,707	560	151,410	271	196,618	121	100,500	15,237
	9	124,209	554	110,885	393	148,069	153	88,395	15,808
	10	129,255	531	106,490	278	161,723	143	91,131	15,097
	11	114,617	706	98,855	296	169,113	153	93,840	16,644
	12	114,802	588	106,584	332	166,884	181	86,297	15,782
5	1	115,818	567	103,190	309	147,300	186	79,231	15,219
	2	115,327	470	103,410	331	144,020	179	93,942	14,311
	3	123,802	587	117,235	331	158,154	197	102,795	15,544
	4	157,892	531	138,296	315	195,491	203	111,958	14,394
	5	188,398	436	177,927	221	219,636	127	123,340	14,179
	6	204,456	298	202,847	271	250,721	111	139,965	13,253
	7	190,503	353	184,677	242	239,165	97	128,267	13,148
	8	131,660	527	123,996	394	152,514	74	86,471	16,037
	9	89,548	562	92,832	339	156,607	135	72,652	15,330
	10	81,329	653	74,372	339	112,121	140	69,375	16,525
	11	77,949	545	82,405	370	109,956	147	76,318	16,520
	12								

※ 生後60日齢までの情報になっておりますので、ご注意ください。

## 令和5年11月乳牛市場成績

頭：千円：税込

市場名	開催日	育成牛（ホ乳・ホ系・他）				初妊牛（ホ乳・ホ系・他）				経産牛（ホ乳・ホ系・他）			
		成立頭数	最高値	最低値	平均値	成立頭数	最高値	最低値	平均値	成立頭数	最高値	最低値	平均値
根室	11/2					347	754	218	465	1	372	372	372
釧路	11/6	246	326	66	202								
豊富	11/10					329	659	220	408	10	350	176	255
根室	11/10	204	351	89	246								
十勝	11/13					616	798	52	471	68	563	105	341
十勝	11/16	476	367	37	241								
北海道	11/17	55	310	22	198	111	568	172	402	7	398	213	303
豊富	11/24	222	334	21	217								
北見	11/27					368	737	99	403				
十勝	11/28					497	982	165	454	68	593	105	337
釧路	11/29					289	686	257	427				
根室	11/30					366	781	220	468				
合計	12回	1,203	367	21	227	2,923	982	52	444	154	593	105	332
前年同月成績	11回	1,222	321	1	182	2,657	1,283	37	448	202	693	35	261
前月合計成績	11回	1,108	344	7	202	2,449	1,031	110	430	165	553	62	309

## ホクレン乳牛市場開催日程

12月1日(金)	ホクレン北見地区総合家畜市場（佐呂間）育成	1月12日(金)	ホクレン豊富地域家畜市場（豊富）
12月8日(金)	ホクレン豊富地域家畜市場（豊富）	1月15日(月)	ホクレン十勝地区家畜市場（音更）
12月11日(月)・12日(火)	ホクレン十勝地区家畜市場（音更）	1月18日(木)	ホクレン十勝地区家畜市場（音更）育成
12月14日(木)	ホクレン十勝地区家畜市場（音更）育成	1月19日(金)	ホクレン北海道家畜市場（安平）
12月15日(金)	ホクレン北海道家畜市場（安平）	1月24日(水)	ホクレン北見地区総合家畜市場（佐呂間）
12月15日(金)	ホクレン北見地区総合家畜市場（佐呂間）	1月25日(木)	ホクレン根室地区家畜市場（中標津）
12月18日(月)	ホクレン根室地区家畜市場（中標津）	1月26日(金)	ホクレン釧路地区家畜市場（大楽毛）
12月19日(火)	ホクレン釧路地区家畜市場（大楽毛）		

## ホクレン家畜市場所在地及び担当支所（問合せ先）

市場名	市場所在地	電話番号	担当支所・課	電話番号
北海道家畜市場	勇払郡安平町早来新栄4番地	0145-22-4109	苫小牧支所 酪農課	0144-36-1431
豊富地域家畜市場	天塩郡豊富町上サロベツ569番地の1	0162-82-3150	稚内支所 酪農課	0162-34-2131
十勝地区家畜市場	河東郡音更町字音更西2線9-1	0155-42-2231	帯広支所 酪農課	0155-66-8220
北見地区総合家畜市場	常呂郡佐呂間町西富127番地2	01587-2-2689	北見支所 酪農課	0157-23-9003
釧路地区家畜市場	釧路市大楽毛86番地1	0154-57-8457	釧路支所 酪農課	0154-23-6163
根室地区家畜市場	標津郡中標津町南中10番2	0153-72-1366	中標津支所 酪農課	0153-72-9967
ホクレン本所 酪農部 家畜販売課	札幌市中央区北4条西1丁目3番地	011-232-6188		

☆家畜車の手配につきましても、各市場担当課にて承っておりますのでご相談下さい。

# 北海道乳牛産地情報

(令和5年12月1日現在)

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	2.0~3.0	横這い	札幌管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で91.8%、累計で92.4%、累計で92.0%の実績となっております。
	初妊牛	4.5~5.5	やや強含み	12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月中旬の分娩中心となり、道内外での需要が回復し始めているため、やや強含みで推移するものと見込まれます。市場については、出場頭数が少ない地域のため購買者の入り方で大きく相場変動する可能性があります。
	経産牛	3.5~4.5	横這い	庭先購買については、高能力牛の初妊牛の販売が多い地域であるため、能力情報を含め府県支所を通じて紹介いたしますので、よろしくお願いたします。
釧路管内	育成牛(10-12月令)	2.5~3.5	強含み	根釧管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で97.4%、累計で95.4%、中標津管内月計で99.0%、累計で95.8%の実績となっております。
	初妊牛	4.5~5.5	やや強含み	12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月中旬の分娩中心となります。都府県からの需要や、道内の搾乳兼牛確保の動きが高まる中で、雌雄選別腹は資源不足感があり今後は、高値で推移するものと思われまます。F1腹の価格についても、やや強含みで推移しておりますが、和牛受精卵移植腹の価格は横ばい、やや弱含みとなっております。育成牛、経産牛価格はともに、初妊牛価格の上昇につられて、やや強含みで推移するものと思われまます。
	経産牛	4.0~5.0	強含み	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	2.7~3.7	やや強含み	帯広管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で96.0%、累計で94.5%の実績となっております。
	初妊牛	4.7~5.7	やや強含み	12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月中旬の分娩中心となります。道内需要が高まっていることから相場はやや強含みで推移するものと見込まれます。資源については豊富にあるものの、雌雄選別腹の不足感が続いている状況で、相場も強くなっています。和牛受精卵移植腹については、やや人気が無く横這いに推移するものと思われまます。また、経産牛については高値で推移するものの、全体では横這いであると思われまます。育成牛は生まれ月によりまますが、初妊牛の相場動向に同調しながらやや強含みで推移するものと見込まれます。
	経産牛	4.0~5.0	横這い	
道北管内	育成牛(10-12月令)	1.8~2.8	横這い	道北管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で95.1%、累計で95.0%、北見管内月計で96.8%、累計で94.6%の実績となっております。
	初妊牛	4.7~5.7	やや強含み	12月の初妊牛動向といたしまして2月下旬~3月中旬分娩中心の出回りとなります。春分晩も出回り始めるため、道内・都府県間わず需要はあると考えられまます。相場は中クラス以上の牛において引き合いが強くなり、やや強含みに推移するものと予想されます。腹別の内容につきましましては、F1腹の資源は十分にあります。雌雄選別腹については、資源不足から、高値で取引されると思われまます。和牛受精卵移植腹に関しては、受精卵の種雄牛により価格差が大きいです。経産牛に関しては、産次数の少ない牛については引き合いが強くなることが見込まれます。
	経産牛	3.2~4.2	横這い	
道内総括	育成牛(10-12月令)	2.5~3.5	横這い	道内の11月中旬までの生乳生産量前年比は96.6%、累計で95.0%の実績となっております。道内では各地の気温がマイナスを記録するようになり、本格的に冬の季節を感じるようになっています。
	初妊牛	4.7~5.7	やや強含み	12月の初妊牛動向といたしまして、2月~3月中旬の分娩中心となります。来年度の生産の見通しも見えてきたことから道内では購入意欲が高まってくることが予想されまます。また猛暑の影響で春分晩も例年に比べ資源不足と見込まれ、特に都府県からの需要が今後増えにくくなることとが予想されまます。各地域、徐々に相場も上がってきているため、春分晩が中心となる年明けから大きく跳ね上がる可能性もあります。このような状況のため導入計画がございましてお早めにお早めのご注文をよろしくお願いたします。今後、相場動向を注視しながら庭先購買中心で搾乳用兼牛を供給していきたいと思っております。
	経産牛	3.5~4.5	横這い	

\*上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選音購買による予想相場です。

庭先選音購買のため、市場購買とは異なります。

毎度、乳牛購買事業に大変ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
乳牛の導入計画がございましたら、最寄りの支所へご一報下さい。  
担当がお伺いし、最近の状況をご説明し、納得いただけるよう購買のお手伝いを致します。  
また、購買後の輸送・事故処理は責任を持って最寄りの支所と札幌支所がお世話申し上げます。

全国酪農農業協同組合連合会(全酪連)

札幌支所  
☎011-241-0765

《各事務所電話番号》  
釧路事務所 ☎(0154)52-1232  
根室駐在員事務所 ☎(0153)76-1877  
帯広事務所 ☎(0155)37-6051  
道北事務所 ☎(01654)2-2368

令和5年12月11日

## 輸入粗飼料の情勢

全酪連大阪支所  
酪農生産研究会

### 北米コンテナ船情勢

北米西海岸航路は主要の乗継航路を含め11月上旬以降、出荷が混雑してきています。日本向け直行便を運航している一部の船会社では、年末年始向けの貨物増加で船腹が満杯となりスケジュールの遅れが発生し、乗継航路がある船会社も玉突きの影響で接続船に乗せることができず遅れが発生しています。

また、輸出業者についても11月末のサンクスギビングデー（感謝祭）前に増加した貨物を捌いており、米国内の港湾も混雑しています。太平洋北西部（PNW）地域では輸出業者の工場からシアトル/タコマ港までトラックで1日2往復できるところが、港湾混雑の影響で1往復しかできず、出荷の稼働率も低下しています。

年末年始の需要が落ち着く頃には、中国の旧正月の影響で貨物の流通量が一時的に低下し、スケジュール調整のために本船を間引き運転する可能性もあり、海運状況には引き続き注視が必要です。

### ビートパルプ

【米国】

23—24年産ビートの収穫作業は概ね終了し、来春まで製糖作業およびビートパルプペレットの生産が続く見込みです。主産地である中西部では播種の遅延により生産量の減少が懸念されていましたが、その後天候に恵まれたこともあり例年以上の豊作となっています。

米国産ビートの需要については先月に引き続き変化はありませんが、23年産の上級品アルファルファの高値取引や大豆粕価格の上昇もあり、直近の価格は堅調に推移しています。

### アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは23年産の収穫は終了しています。23年産の収穫を振り返ると、1番刈は春先の冷涼な気候により2～3週間遅れて収穫作業が開始されましたが、カナダからの山火事による煙がコロンビアベースンに流入したこ



とで乾燥に時間が掛かり、一部の地域では降雨被害もあったことから産地全体で上級品の発生は限定的となりました。2番刈については、天候に恵まれ収穫スケジュールの遅れを取り戻したことで多くの圃場では色目が良い上級品の発生が中心となりました。3番刈・4番刈についてはカナダで山火事が再び発生し、その煙がコロンビアベースンに流入したことで乾燥に時間が掛かり、一部の地域では降雨被害もあったことから産地全体で上級品の発生は限定的となりました。産地相場については年間を通して上級品の発生が限られたため、米国内酪農家や他国向け需要も上昇しており、23年産の開始時と比較しても堅調に推移しています。

### オレゴン州

主産地であるオレゴン州南部クラマスフォールズでは23年産の生産を終えています。産地ではワシントン州同様に生育期の気候が冷涼で生育が遅かったことに加え、収穫開始直前に降雨があったため、例年より1週間程度遅れた6月中旬以降から1番刈の収穫が開始されました。作況については天候の回復を待って収穫した影響で、刈取り適期を逃し生育が進んだ圃場もあり、成分値の低下が懸念されましたが、例年同様、上級品中心の発生となりました。2番刈については、1番刈の収穫時期が例年より遅くなったことから1番刈で刈り取れなかった茎が残った圃場もあり、例年よりも色目の鮮やかな品質は限定的となりました。3番刈は降雨の影響で天候の安定を待って収穫された圃場では適期での収穫を行うことができず、刈遅れや雨当たり品が多く発生しました。23年産は1番刈の収穫作業の遅れをシーズン終盤まで解消できなかったため、4番刈の収穫を断念する圃場も多く見られました。産地相場は1番刈以降、近隣州の上級品不足の影響で国内向けの馬糧向けや中国や中東からの引き合いが増加していることから堅調に推移しています。

同州中部クリスマスバレーでも23年産の生産を終えています。1番刈は6月中旬より収穫作業を開始しましたが、収穫作業中に降雨被害があり上級品の発生は限定的となりました。2番刈は一部の圃場では降雨被害が出ているものの、高成分の良品も発生しました。3番刈は降雨被害により上級品の発生は限定的となり、米国内酪農家からの需要も高まり産地相場は1番刈・2番刈よりも堅調に推移しています。

### カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは9番刈の収穫が行われています。夏の暑さが本格化される前に収穫された1番刈・2番刈は好天に恵まれたこともあり、成分が高い上級品中心の発生となりました。夏季に入ってから気温上昇に伴い成分値が下がり始めたことで、茎が細い過乾燥なサマーヘイの発生が中心となり中東や中国からの需要は減退しましたが、現在は冬季期間に入り、気温が下がってきたことか

ら成分値も回復しており需要も増進しています。

## ネバダ州

ネバダ州北部ウィナムッカでは23年産の生産を終えています。1番刈では降雨被害を受け、2番刈ではコオロギの異常発生によりアルファルファに被害が出たことから輸出向けには適さない品質が多く発生しました。3番刈でも8月下旬に発生したハリケーン「ヒラリー」や不安定な天候の影響で、良品の発生は限定的となりました。

産地相場については隣接州で良品のアルファルファが不足していることから、米国内酪農家からの引き合いは堅調に推移しています。

## 米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースン及び、エレンズバーグでは23年産の生産を終了しました。23年産は作付面積減少に加え、5月下旬の急激な気温の上昇や、収穫時期に降雨が複数回発生したため、1番刈は中・低級品中心の発生となり、上級品の発生は限定的となりました。23年産の価格が下落したことで不満を抱える生産農家も多く、昨年と比べて半数近くの生産農家が2番刈を行わず相場の良い豆類やとうもろこしといった換金性の優れる作物に転作を進めました。2番刈の品質は上級品の発生が中心となりましたが、1番刈の上級品が限定的なため主に馬糧向けとして高値で取引されています。

24年産の作付面積については、23年産の価格下落により生産農家が他作物に転作することが予想されており、作付面積は減少する見込みです。

## スーダングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは23年産の生産が完了しました。23年産は日本向けの出荷が減少し、産地の多くの輸出業者は22年産の旧穀在庫を抱えていたこともあり、例年より遅い買付進捗となりました。1番刈は上級品及び中級品の発生が中心となり、色抜け品の発生は生育期の湿度が低かったこともあり限定的となりました。2番刈は8月下旬に発生したハリケーン「ヒラリー」に加え、9月上旬にも産地に降雨が発生し大きな雨当たり被害があったため、良品の発生は限定的となりました。

作付面積は前年に比べ減少したものの日本の需要に対しては輸出業者も旧穀在庫を抱えているため供給力には懸念はありません。今期の産地相場低迷により来期は今年以上に作付面積が減少する可能性もあるため、今後の相場の動向については注視が必要です。

## クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは23年産の生産を終えています。昨年は高騰したアルファルファのタンパク源代替として、米国内酪農家からの引き合いが強く、内需が産地相場を牽引したことで大幅な値上がりとなりましたが、23年産ではミード湖の水位上昇による水不足の解消、干ばつ状況も緩和されたため相場価格は軟調に推移しました。品質については8月下旬に発生したハリケーン「ヒラリー」や降雨の影響で刈遅れ品も一部発生しましたが、23年産全体を通しては葉量が多く柔らかな良品の発生が中心となりました。

## バミューダ

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは23年産の生産を終えています。8月と9月の降雨により中級品の発生が中心となりましたが、米国内酪農家や輸出向け需要は安定しています。

## カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区、中部クレモナ地区ともに23年産の生産を終えています。南部レスブリッジ地区1番刈の品質は収穫期の降雨も少なく天候に恵まれたことから上級品から中級品中心の発生となりました。中部クレモナ地区の1番刈は山火の煙による日照不足や乾燥に時間が掛かったことや干ばつにより上級品の発生は限定的で中級品中心の発生となりました。産地では例年よりも暖かく乾燥した気候が続いており出荷の遅れは目立っていませんが、今後、降雪によりスケジュールの遅れも発生する可能性があるため注視が必要です。

## 豪州産オーツハイ

東豪州：

東豪州の収穫作業は10月下旬から行われ、11月下旬で終了しました。昨年は収穫期に「ラニーニャ現象」及び「負のインド洋ダイポールモード」の影響で記録的な大雨に見舞われたため、低級品中心の発生となり生産量も大きく減少しましたが、23年産については生育から収穫までの期間で降雨も少なく天候に恵まれたことで雨当たり被害もほとんどなく、上級品中心の発生となり収量も増加しています。

南豪州：

南豪州の収穫作業は11月下旬で終了しました。南豪州では11月上旬に降雨がありましたが、生育から収穫を通して天候に恵まれたことから上級品の発生が中心となっています。収量については一部の地域で干ばつの影響があり例年よりも減少しています。

西豪州：

西豪州の収穫作業は11月下旬で終了しました。乾燥した気候により単収の減少が懸念されていましたが、収穫前にまとまった降雨があり見込みより収量は回復しています。品質については天候に恵まれたこともあり上・中級品の発生が中心となっています。



左：23年産オーツヘイ上級品  
右：23年産オーツヘイ中級品  
(12月上旬：西豪州にて撮影)

以上

## 技術情報

### 周産期の乳牛とカルシウムについて

白石カルシウム株式会社

食品アグリ資材 G

#### 1. はじめに

皆さんが牛乳の栄養素として真っ先に思い浮かぶものの 1 つとしてカルシウム(Ca)があります。Ca は骨の成長、筋肉の収縮運動、細胞内の情報伝達物質として働き、動物にとって必要不可欠な栄養素です。

一方で酪農家の方々はよくご存じかもしれませんが、乳牛は妊娠および出産を繰り返すことで効率的な乳生産を維持し続けることを要求される動物です。その為、乳牛にとって、Ca は毎日体外に出ていくことを余儀なくされており、他の栄養素と共に Ca は乳牛の飼料に欠かすことができない最も重要な成分の 1 つになっています。また近年は改良も進み、家畜改良事業団から公表されている最新の牛群検定の結果では、30 年前は年間 1 頭当たり 8,000kg を満たなかった乳量が今では 10,000kg に届こうとしており(1)、Ca の重要性も高まっています。

#### 2. 周産期の乳牛と Ca について

妊娠末期における胎子の骨格形成および初乳生産により、Ca、マグネシウム(Mg)およびリンなどの血中ミネラル成分の値が大きく変動し(2)、特に Ca 必要量が急激に増加するため(3)、乳牛のほとんどすべてが分娩前後に血液中の Ca 濃度が低下してしまいます(図 1)。この低 Ca 状態が重篤な場合は低 Ca 血症に発展し、先に述べました筋肉の収縮運動や細胞内での情報伝達の不具合による「起立不能」、胃腸の筋肉が動きづらくなることで起こり得る「食欲不振 (DMI 低下)」、さらには子宮の筋肉がうまく収縮できず「後産停滞」等を引き起こします。これらの症状はその後の乳生産や繁殖成績に悪影響を及ぼしかねません。

低 Ca 血症の予防および対処法としてこれまでに、分娩時における各種 Ca 製品の使用、分娩前におけるビタミン D の使用、そして妊娠後期における低 Ca 飼料の給与および飼料中陽イオン-陰イオン差 (Dietary Cation-Anion Difference ; DCAD)の調整など様々な方法が開発されてきました(2)。

このうち、分娩前の低 Ca 飼料の給与および DCAD の調整は、分娩に先立って体内の Ca 恒常性機構の活性を促すとされています(4)(5)。Goff(2008)は、低 DCAD 飼料の利用により Mg および副甲状腺ホルモン(PTH)によるビタミン D レセプターの感受性が増加し、低 Ca 血症を予防できると報告しています(4)。しかし実際は、その調整が難しく、実践できている牧場は僅かであると考えられます。

分娩直前直後用の Ca 製品は様々なメーカーから Ca 源としてグルコン酸 Ca やプロピオン酸 Ca 等を使用した商品が販売されており、形状も液体やペースト状等の商品があります。このような Ca 製品は分娩直前直後の急激な低 Ca 状態の対策として使用されているものの、効果の持続性や給与の手間等の課題があります。

### 3. 「移行期用カルシウム P」について

乾乳期に「移行期用カルシウム P」を給与し、スムーズな分娩を目指す牧場もあります。「移行期用カルシウム P」には、図 2 の通り分散性が高く溶解易い微粒子の炭酸カルシウムを配合しており、また先にお話しましたビタミン D レセプターの感受性に必要な Mg も配合しています。過剰になりやすいリンをあえて配合していない為、リンと Ca のバランスを整え、Ca の代謝を正常に近づける手助けができるのではと考えます。

### 4. 最後に

近年は飼料、資材および光熱費等の生産コストが高騰している状況です。そのような時だからこそ、比較的安価なカルシウム製品を上手にお使い頂くことで効率良く、また経済的に Ca 対策をしてみたいかがでしょうか。

### 参考文献

- (1) 一般社団法人家畜改良事業団 令和 4 年度乳用牛群能力検定成績速報(令和 5 年 5 月報告)
- (2) Horst R. L., J. P. Goff, T. A. Reinhardt and D. R. Buxton, Strategies for preventing milk fever in dairy cattle. *J. Dairy Sci.*, 80: 1269-1280.1997.
- (3) Horst R. L., J. P. Goff and T. A. Reinhardt, Adapting to the Transition Between Gestation and Lactation:Differences Between Rat, Human and Dairy Cows. *J. Mammary Gland Biol. Neoplasia.*, 10: 141-156. 2005.
- (4) Goff J. P. The monitoring, prevention, and treatment of milk fever and subclinical hypocalcemia in dairy cow. *Vet. J.*, 76: 50-57. 2008.
- (5) Vagg, M. J. and J. M. Payne, The effect of ammonium chloride induced acidosis on calcium metabolism in ruminants. *Bri. Vet. J.* 126: 531-537. 1970.

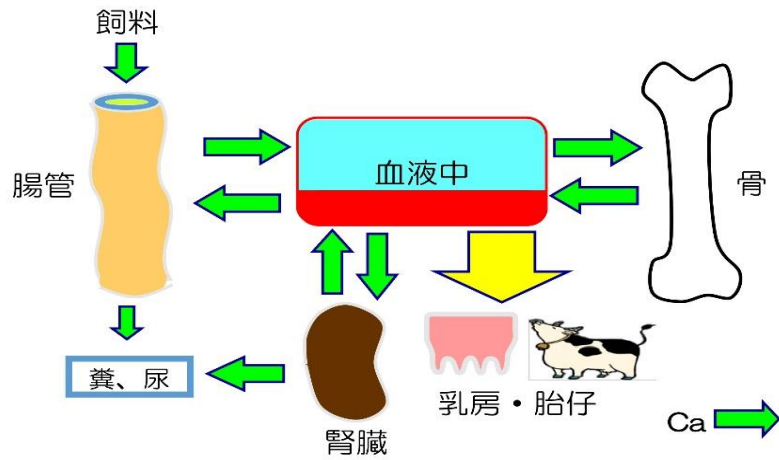


図1 体内カルシウムの動態

泌乳前期、乾乳後期は牛乳や胎仔へのCa供給が大きくなり血液中のCa量が低下し易い

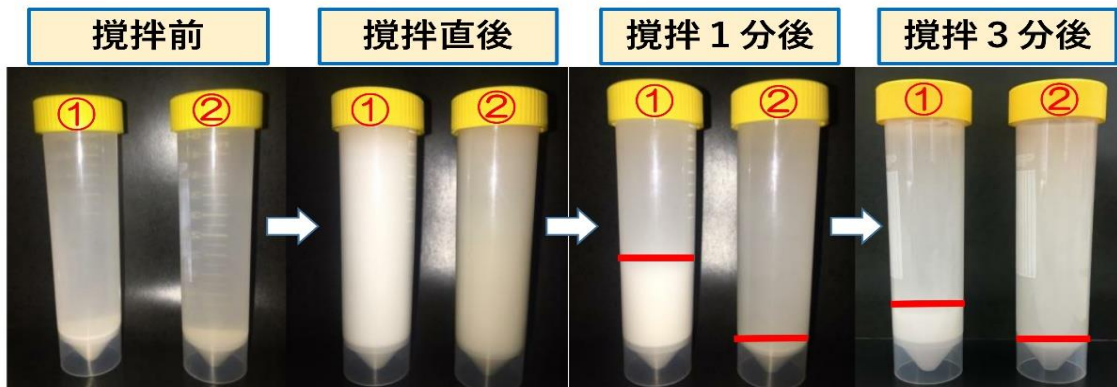


図2 粒子の大きさによる炭酸カルシウムの分散性の違い

微粒子の炭酸カルシウム①の方が一般的な飼料用の炭酸カルシウム②に比べ水の中に混ざり易い

原料名	移行期用カルシウムP
形状	ペレット
炭酸カルシウム Ca として	310g (62g)
酸化マグネシウム Mg として	40g
セレン酵母 セレン として	—
その他(賦形材等)	米ぬか油かす、 キャッサバ澱粉かす、 糖蜜

( ) は微粒子の炭酸カルシウムのCa量

表1 移行期用カルシウムPの内容成分(kg中)